

## EUR/USD (6/18) 長期的には堅調維持も、下落転換かに注目



### コメント

**先週の値動き**＝行って来い。下落基調継続も、水曜日以降、反発した。

**今週の指標**＝特になし。ただ、木曜日にECB理事会が開かれ、注目される。

**テクニカル**＝ユーロ堅調の動きも1.30ドルの壁を前に反落。+2σを超える水準で強気の上昇を続けていたが、調整が入った模様。ただ、以前26週移動平均線を越える水準であり、弱気とはいえないようだ。

**金利動向**＝6月29日のFOMCに注目。米要人からはインフレ懸念発言が続いておりドルサポート要因に。一方、ユーロ側は、今週木曜日にECB理事会が開かれる。注目か。

### テクニカル・レート

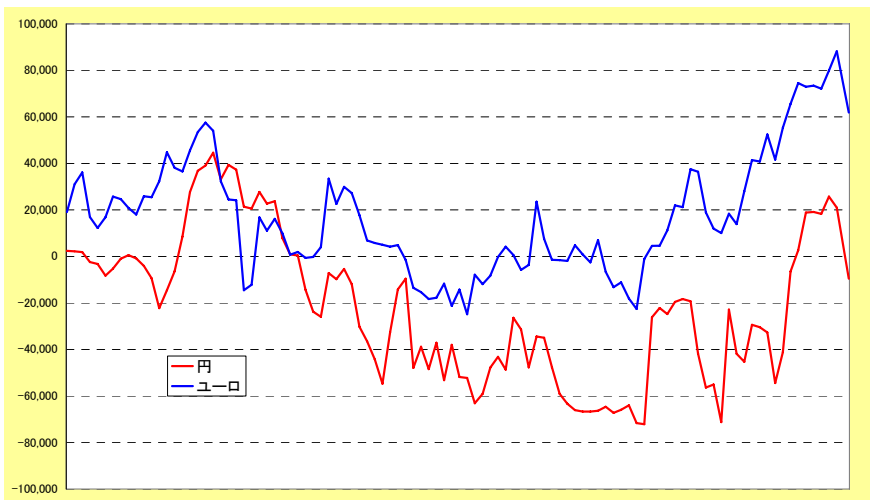
+2σ = 1.2983ドル  
26週移動平均線 = 1.2291ドル  
-2σ = 1.1598ドル

先週始値 = 1.2617ドル  
先週高値 = 1.2670ドル  
先週安値 = 1.2530ドル  
先週終値 = 1.2641ドル

### 今週の投資例

トレンド＝上昇  
現在値＝1.2641ドル  
投資のコツは「転換点を見つけること」だから、押し目買いを狙うよりも、下落でとる方がうまいか。ポイントはご自身で。

## 7週ぶりに円は売り越しに、福井総裁問題の影響は・・・

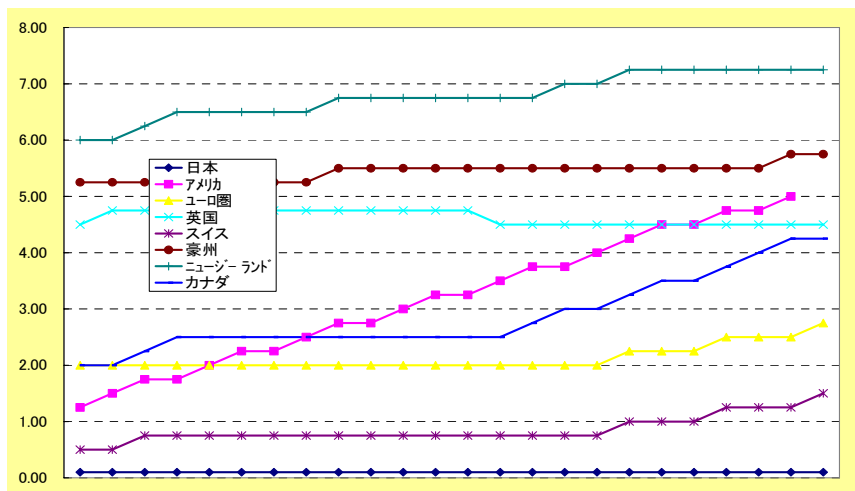


### IMM投機筋ポジション動向

6月13日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の売り持ちは約▲1.0万枚。先週より約3万枚縮小して、7週ぶりの売り越しに。13日の終値は115.23円。直近6月16日の終値は115.17円。変化なしか。

一方、ユーロの買い越しは先週より約2.7万枚縮小し、約6.1万枚。13日が1.2546ドル。16日が1.2641ドル。やや拡大か。

ユーロの買い持ちは4月半ば水準まで戻った。4月20日は、1.2339ドル。そこから一時1.2895ドルまで上昇した。投機筋のポジションから見ると、調整終了ユーロ再上昇も考えられる。



### 各国金利動向

先週は日銀で金融政策決定会合が開催され、ゼロ金利政策が継続された。ただマスコミ上は、福井日銀総裁が自己資金を村上ファンドに拠出していたことが話題となった。この問題により、日銀はゼロ金利政策の解除が難しくなったとのこと。円安、株安の原因となったかは不明だが、多くの個人投資家が株で大きな損失を出し、低金利の苦渋を味わう中、公的な人間がこのような行為となると、国民の不信感も募る一方だ。。

なお、今月の政策金利関連は29日に米FOMCというビッグイベントを残すのみ。利上げ折込済みだが、さてどうなるか。